

第3次大洲市総合計画 第2回ワークショップ 実施報告書

開催日 令和7年11月4日（火）14時～
会場 大洲市総合福祉センター 4階 多目的ホール

大洲市 企画情報課

実施概要

開催日時	令和7年11月4日 14:00～16:00	参加人数	30人
会場	総合福祉センター 4階多目的ホール		
分野別	①市民協働・共生、②健康・福祉、③商工・観光、④農林水産、⑤子育て・教育		
配布資料	分野別ワークショップ（第2回）、オンラインプラットフォーム等について		

本日の予定

14:00～	開会の挨拶
14:05～	前回の振り返り ワークショップ説明
14:20～	ワークショップ（WS） テーマ：目指す姿を実現する上での “課題”を考える
15:30～	チームからの発表
15:45～	オンラインプラットフォームについて
16:00	閉会

分野		所属	分野	所属	分野	所属	
市民協働・共生	1	自治会連絡会議／大洲	商工・観光	1	子育て・教育	1	大洲市小中学校教頭会
	2	自治会連絡会議／長浜		2		2	大洲市PTA連合会
	3	自治会連絡会議／肱川		3		3	おおずスポーツクラブ
	4	自治会連絡会議／河辺		4		4	大洲保育会
	5	自主防災組織		5		5	私立就学前施設代表
	6	国土交通省 大洲河川国道事務所 (道路担当)		6		6	放課後児童クラブ関係者
	7	国土交通省 大洲河川国道事務所 (河川担当)		7			
健康・福祉	1	大洲市社会福祉協議会	農林水産	1			
	2	市立大洲病院		2			
	3	清祥会ひまわり		3			
	4	デイサービスセンター春賀		4			
	5	大洲市身体障がい者協議会		5			
	6	大洲市老人クラブ連合会		6			

ワークショップ内容

第2回では、第1回で検討した各チームの「目指す姿」を“実現する上での課題”について検討していただきました。検討した課題から最重要課題として最大3つを抽出し、各チームから発表をしていただきました。ワークショップの最後には事務局よりオンラインプラットフォームについてのアナウンスを行いました。

ワークショップの「進め方」と、それぞれのチームの「まとめ」は次のとおりです。

本日の進め方

ステップ1
(チーム・5分)

第1回を振り返り”**目指す姿**”に対する
共通認識を持つ

ステップ2
(個人・15分)

目指す姿の実現に向けた**問題・課題を
考える** ※付箋に書出し

ステップ3
(チーム・25分)

個人で考えた**問題・課題を**理由等も
含めて**共有する** ※模造紙に整理

ステップ4
(チーム・25分)

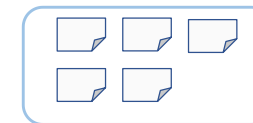
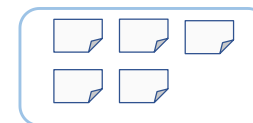
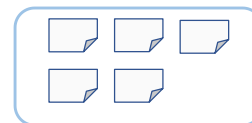
最優先課題を抽出する
(理由も含めて)

本日の進め方

ステップ3～4

問題・課題検討模造紙（付箋貼付・記入例）

〈問題・課題〉ステップ3



ステップ4

〈最重要課題1〉

●●●●●●

〈理由1〉

現状●●●●●で、●●●●だから

〈最重要課題2〉

●●●●●●

〈理由2〉

現状●●●●●で、●●●●だから

〈最重要課題3〉

●●●●●●

〈理由3〉

現状●●●●●で、●●●●だから

分野	上段：目指す姿 下段：込める想い
市民協働・共生	希望のあるまち 赤ちゃん、高齢者みんなが一体となって希望のあるまち
商工・観光	いきいきと自分らしく輝けるまち 大洲市 自分らしく幸せに生きていきたい
子育て・教育	うるおい・うまれるまち うるおい：人と大洲がうるおう うまれる：子ども/喜び/安心/お金/誇り/アイデア/産業/愛着/活気/笑顔/希望
農林水産	農林水産業で子育てできる持続可能なまち 農林水産分野として、市民全体が一体となって子ども達に、将来、農林水産業で働きたいまちを目指すのが良いと思った
子育て・教育	寄り添い合える誰もが安心安全なまち 子育て教育分野として、地域全体で支え合い、子育てしやすいまちを目指すのが良いと思った

▶ 第2回ワークショップでは、第1回ワークショップで考えた“目指す姿”を実現するうえでの“課題”について考えていただきました。

目指す姿	希望のあるまち
------	---------

最重要課題とその理由

- 1 全員参加
- 高齢者・次世代とのつながり
 - 地域とのつながり



発表内容

前回、目指す姿を「希望のあるまち」と設定した中で、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが一体となって行事や自治会、コミュニティセンターの活動を行うことが大事だと考えた。

地域内での高齢化や人口減少が進む中で、そういった活動だけでなく、消防団の活動も大変になってくることが課題として挙げられ、全員が参加し地域とつながることで解決しようという意見となった。

全員参加

全員参加→希望

ボランティアの人数集め

行事活動

次世代に継ぐ活動

活躍の場

赤ちゃんからお年寄まで参加

消防団の活躍

Uターン移住者を増やす

市議会に中学生を

郷土芸能

その他の問題点

(労働力)
人手不足特に若い人

防災
時間がかかる

公共交通不足

仕事がない

お金がかかる

理解してもらう

後継者不足

資金

子どもが少ない

キーマン・リーダー不足

目指す姿

いきいきと自分らしく輝けるまち 大洲市

最重要課題とその理由

1 人材不足のため保健医療福祉の担い手が必要である

大洲市の人口が4万人を切り、人口減少、少子高齢化が進んでいる。
おのずと保健医療福祉の担い手も減少し担い手不足となっている。

2 社会参加を行い、いきいきと自分らしく生きる

現状、健康であっても地域のつながりを持たない高齢者が多い。
一人ひとりが自分らしく健康生活を続けていくためには、地域とのつながりを持ちエンパワメントを高めた生活が必要である。

3 安心・安全な医療の充実が必要

現状、全国的にも病院赤字による倒産が相次いでいる。
大洲市に必要な医療充実のため、病院の努力とともに医療提供体制の継続が必要である。

発表
内容

健康・福祉の課題として、「人口減少による担い手不足」「社会参加ができていない高齢者の増加」「病院の収益減少による管理・維持や職員の処遇改善が不十分であること」の3つを挙げた。

また、課題の解決のために医療提供体制の継続や一人ひとりが地域とのつながりを持ち、エンパワメントを高めた生活等が必要であるという意見が出た。

将来像を実現するうえでの課題キーワード

人材不足

結婚

赤ちゃん

子どもが近くにいない

医師不足
医師の高齢化指導者
人材確保

介護者がいない

人材不足

看護師不足

人材不足

担い手確保

人口減少

それぞれにゆとりを持っていない為に、協力できるだけの余力がない

社会参加

発信

健康生活への発信

地域活性化

学び

新事業

イベント

地域のつながり

サロン事業への
参加(健康)健康でいるための
予防活動

健康生活への相談場所が必要

閉じこもらない関係づくり

主体的な生き方(与え分けられる)

健康でいるための自己管理(医療)

自分らしく生活できる仕組み作り

エンパワメントを高めた健康生活

交通の便が良くないので人の手足を
借りないと活動できない人が多い

安心・安全な医療の充実

医療・福祉の仕事は人気がない

処遇の改善

技の伝承

収入UP

脳神経外科が少ない

救急対応できる病院がある

若者でも高齢者でも働きやすい環境の配慮が必要

かかりつけ医を持つ

事業所は多いが経営し続けられるだけの収支バランスがとれているか？

必要提出書類や決まり事が多くサービスのバージョンUPに手が回らない
→新しい取組が遅れている

目指す姿

うるおい・うまれるまち

最重要課題とその理由

1 保育・教育の改善

生産人口の転出と地元愛

2 ブランド力の向上

住みたいと思える産業・居住観光の認知

3 チャレンジしやすい環境づくり

行政サポート体制と職場環境

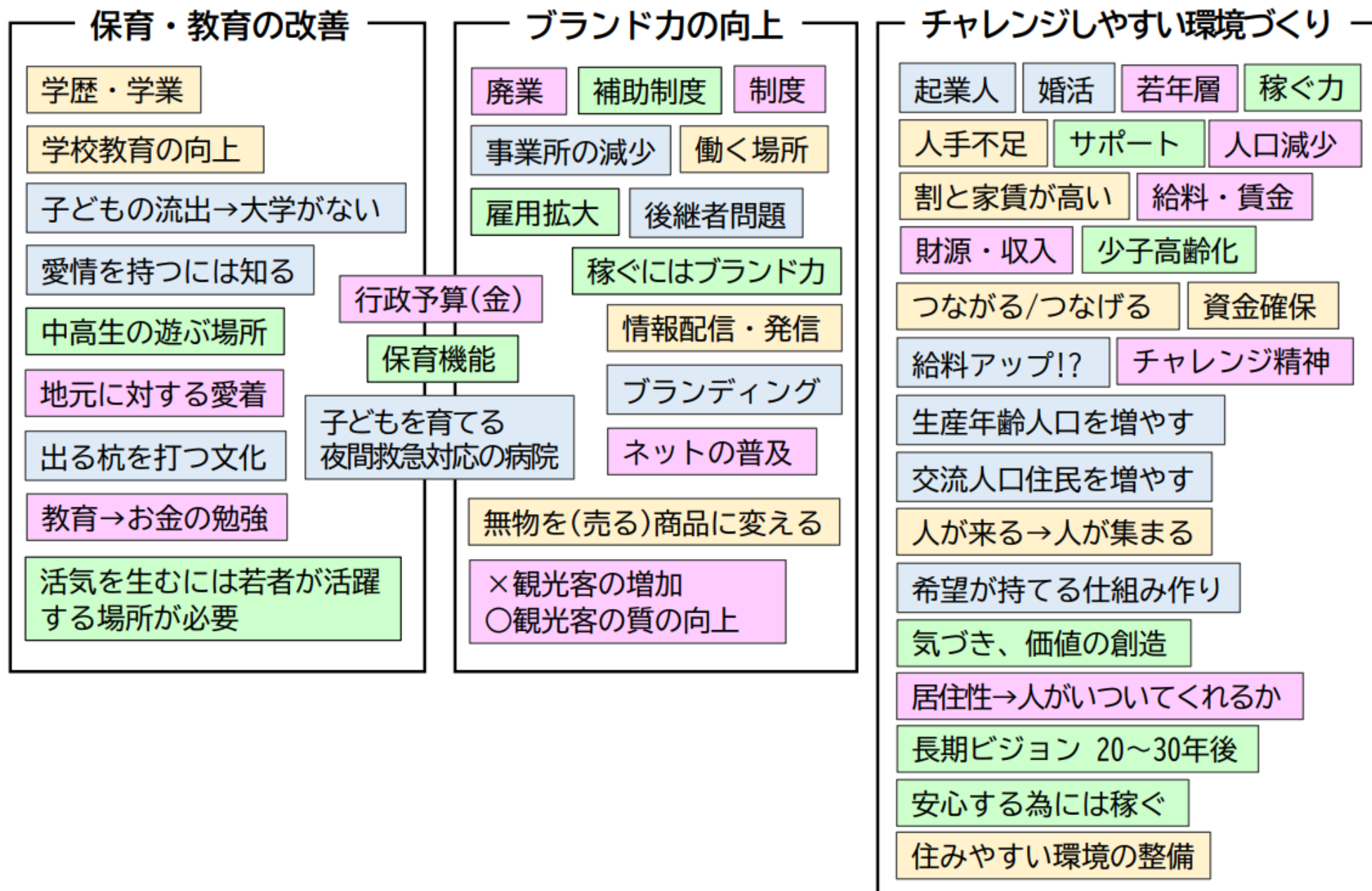


発表
内容

商工・観光の課題として、市の保育制度や、ブランドの認知力、就業場所がない、賃金が低いなどの課題が挙げられた。

それらに対する解決案として保育園の市外在住者の受入れや住みやすさに関わるブランド力の向上、Uターン・Iターンしたい人への環境づくりといったことが必要だという意見が出た。

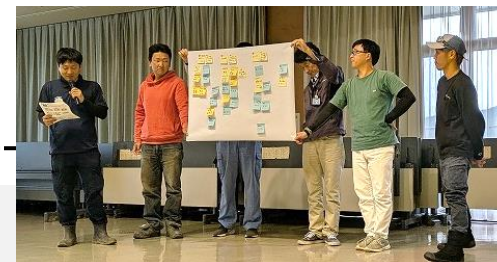
将来像を実現するうえでの課題キーワード



目指す姿

農林水産業で子育てできる持続可能なまち

最重要課題とその理由



1 農林業に使用できる土地

田畑が耕作放棄地となっているため、生きる土地を作っていないといけない。

2 人口確保

人口が減少しているので、大洲市に残ってもらう、またはIターンやUターンがしてもらえる取組・運営をしていく。

3 収入源

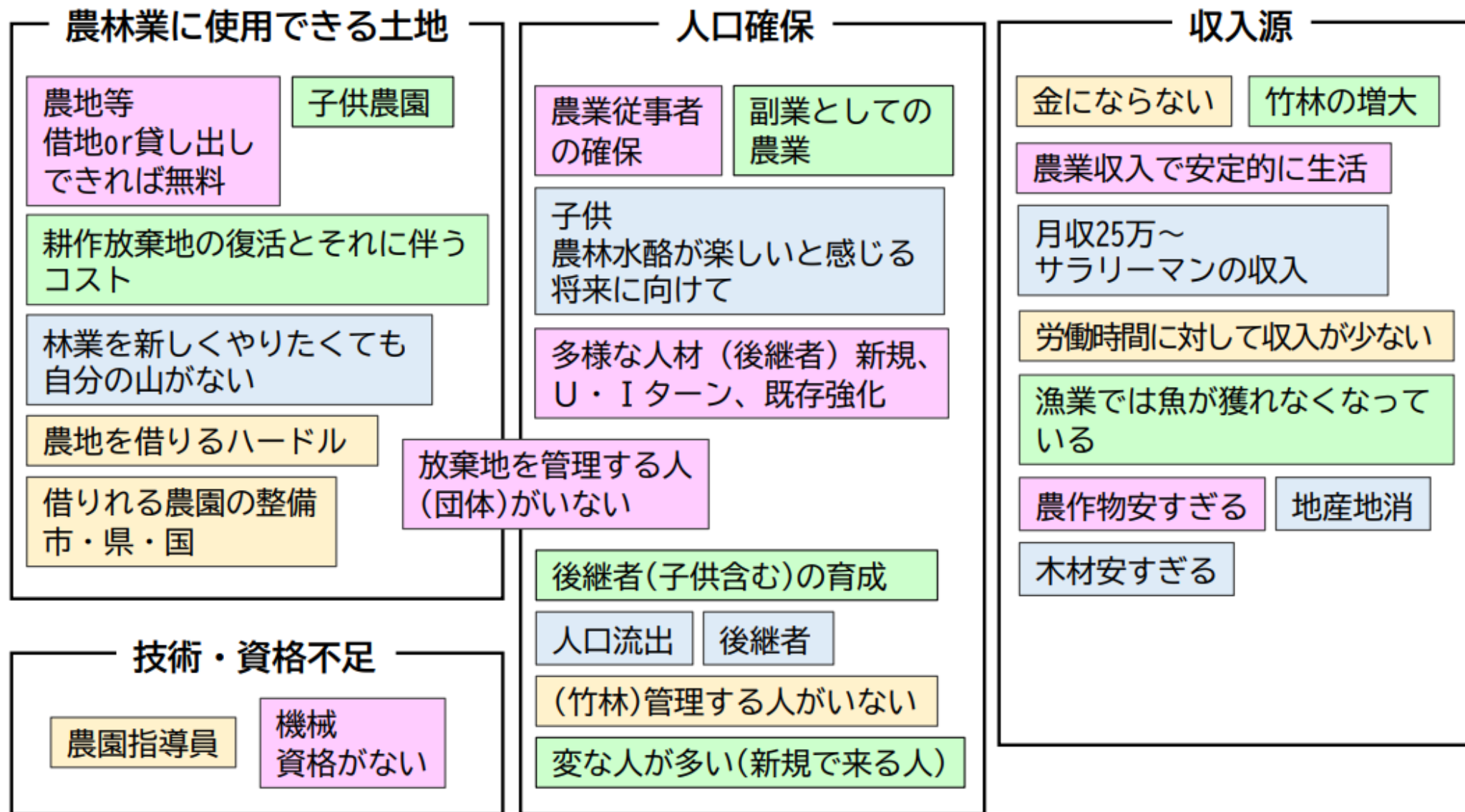
収入が安定していないため、将来が見えるように、数字で「やりたい」「なりたい」を実現的にする。

発表
内容

農林水産の課題として、「農林業に使用できる土地を借りるハードルの高さや土地そのものが耕作放棄地となっている現状があること」「農業従事者が少なく後継者もいないこと」「農林水産業の収益が低いこと」の3つが挙げられた。

それぞれの課題は連動しており、農林水産業で得られる収入が小さいため、農業従事者が不足し、農地や山が荒れるという流れがあるという意見が出た。

将来像を実現するうえでの課題キーワード



目指す姿

寄り添い合える誰もが安心安全なまち

最重要課題とその理由

1 地域で集える場の確保

各施設が離れている。複合施設が欲しい

2 連携不足

人のつながる場が少ないため、気軽に相談できる場所

3 人と金の確保

子育て・教育に関する専門的な知識を持っている人が少なく、教育に対する財源不足

発表
内容

子育て・教育の課題として、「各施設の距離が離れているため地域で集える場がないこと」「子育ての相談などを各場所で行っているが連携不足となっていること」「子育て・教育に関する専門的な知識を持っている人が少なく、またそういったことを教育することも財源がなくできていないこと」が挙げられた。

また、財源については、施設やスポーツイベント等を行うためにも必要だという意見も挙げられた。

将来像を実現するうえでの課題キーワード

地域で集える場の確保

楽しめる場所

イベント

遊べる場所
(室内)イベントの
あり方近場で親子がのんびり楽しめる
場所が少ない

気軽に相談できる

場所

交流の場

人口確保

コミュニティ

協同(幼～老)

地域のつながり

誰が

人とのつながり

人口減少

地域の関係の希薄

子供の数が減っている

人と金の確保

マンパワーの不足

人材

誰が...

人材確保

財源確保

財源

その他

多様な考え方

中心部との差

行動力

療育施設が少ない

負担大

核家族

忙しい

子どもが家族と過ごす時間短い

活動(スポーツ)

園の統合の難しさ

行政をあげて